



上電が設立されたのは大正15年(1926年)の5月27日。

84年目を迎えた2010年の設立記念日に、地域の足である上毛電鉄の末永い運行を目指して「上毛電鉄友の会」は発足いたしました。

すでに上電は設立90周年を迎え、100周年も目の前に、設立100年を経過した友の会もコツコツと上電とともに走り続けます。

挨拶 会報第15号発刊にあたって

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、会員の皆様はご健勝の事と察します。昨春以降、社会情勢を鑑みて当会の多くの行事を中止した中で、国策や社会動向に、数々の矛盾を感じるこの頃でもあります。

昨今、プラスチックゴミ増加に伴う生態系の悪化が懸念され、ストロー使用の自粛や、レジ袋が有料化されました。一方で、コロナ禍でテイクアウト等が増えましたが、容器持参が推奨されないため、身の回りのプラスチックゴミはむしろ増加しています。また、昨夏以降、GoTo トラベルや消費喚起策等が始まりましたが、再度感染情勢が厳しくなると、国の「感染防止対策を徹底した上で」「専門家の意見を聞きながら」「飲食に限定して」などの提言には、疑問を感じてきました。それは同時に、各方面への弊害も助長された部分があったと思います。

上毛電鉄では、感染拡大が続く厳しい状況下、平日の通学時間帯の増便等(次項のポストコロナシンポジウム記事参照)、利便の確保が計られてきました。また、友の会では、毎年、90年以上走り続けたデハ101を利用しております。この度、創立10周年を迎えたなかで造成された基金の一部を、平素の御礼や感謝を込めて、ささやかながら、上毛電気鉄道(株)に贈呈させていただきました(本報末稿に主旨を再掲)。引き続き、会社の益々の健闘と、社員・友の会会員皆様の健康と御多幸をお祈り申し上げます。(上毛電鉄友の会代表 大島登志彦)

講演 ポストコロナ社会の公共交通シンポジウム

上毛電鉄友の会では、「交通からまちづくりを考える会 前橋」が主催する表題のシンポジウムを、県内で活動する3団体とともに共催しました。開催日は、令和2年11月21日(土)、会場は前橋工科大学1号館5階151教室。コロナ感染で参加される方が少ないのではという懸念もありましたが、当日は約70名の参加があり盛会となりました。



冒頭、基調講演として宇都宮大学名誉教授の古池弘隆氏から「ポストコロナ時代でも安心安全、そして健康で幸せになる交通まちづくり」と題しお話がありました。続いて、地域活動ショートレポート、パネルディスカッションへと進行します。

◆地域活動 ショートレポート

この回では、県内6団体(交通まちづくりを考える会 前橋、

永井運輸(株)、のりり学会、2015年から生活交通をつくる会、わたらせ渓谷鐵道市民協議会、上毛電鉄友の会、前橋市交通政策課)からの報告がありました。

●友の会 報告要旨(新保副代表)

3つの題目から、以下の視点を加えて報告を進めた。

(1) 上電友の会の活動経過 ①上毛電鉄友の会の活動経過や会員

数などの概要を説明、②友の会設立10周年の記念の年であること、

③令和2年度は会の活動の多くを実施できずにいること

(2) 上電の利用状況 令和2年度鉄道輸送の上期実績や下期の見通しからは、輸送人員は定期・定期外ともに低下がみられ、特に定期外の落ち込みが大きい。イベント需要が影響しているのではないかと。

(3) ポストコロナ社会を考える ①新しい日常における公共交通期間のあり方とは：一時的に公共交通利用を中止した人をどう呼び戻すか、人と人との距離 ②ポストコロナ社会とコンパクトシティ：公共交通と「密」のイメージを払拭、人口減少時代の国土利用・立地戦略

(新保正夫)

◆パネルディスカッション

「ポストコロナ社会における公共交通への期待」

●大島代表 発言要旨

上毛電鉄友の会代表として参加し、公共交通の利便向上に関わる次の1・2を報告・提案した。

1. 交通利用が減ったコロナ禍での、上毛電鉄の事業計画を紹介

・6月6日ダイヤ改正:始発・最終の大胡発着便を中央前橋発着とした(大胡-中前間延長)

赤城駅で始発・最終りょうもう号接続(前橋市民の東京方面への利便・利用時間帯拡大)

桐生→前橋への深夜の移動の利便向上を図った(両毛線上下り最終より遅い時刻に中前まで運行)

・9月1日より:平日朝大胡-西桐生間増発(大胡7:55発中前往復列車出庫を2時間弱早めた臨時列車扱い)

朝40分空く時間帯に1本運行し、利便向上が図られた通学時間帯の混雑緩和とコロナ禍の要請である三蜜の回避

※これらの増便は、ささやかではあるが、現状ダイヤに最小限の運行経費と乗務員負担の追加で、利便向上を図った事業計画である旨を報告した。

2. 高校生のバス利用促進と利便を図る(群馬の一般路線バスへの全般的提案)

バス運賃は割高感が強い中で、特に高校生は利用し難く、自家用車送迎が増加した。より通学に適合した運行を図り、かつ高校生と高齢者限定の割安定期券(年間60,000円程度が適正上限と考える)を、自治体も支援して、多くの地域・路線で発売されることを、要望した。

(大島登志彦)

●佐羽副代表 発言要旨

SDGsが叫ばれる中、持続可能な社会を創るためには、私たちが「足るを知る」発想で生活する事が重要になります。近年、

気象現象の激化により、毎年のように天災による交通網の寸断が起こっています。そして、負担の大きさから再建できない事例も多くなっています。すでに営利事業の範疇に無い公共交通網を維持してゆく為には、地域の社会インフラと位置付けた国としての持続の為の仕組み作りを必要とする時点に至っているのではないでしょうか。

毎日自家用車に頼り切った群馬の生活ですが、これからは自分の自動車が消費するエネルギーや社会に与えるリスクについても考える事が大切になります。なぜなら、自動車の使い方を変えずに、電動化することは、環境的にもまずいばかりか、エネルギー供給力の限界を超えてしまうからです。これからの時代には、今まで以上に公共交通と新たなモビリティを含めた個人交通とを柔軟に組み合わせた持続可能な移動手段の構築と移行が必須の条件となるでしょう。

(佐羽宏之)

当日の様子（動画）はこちらからご覧いただけます。

前橋工科大学 地域・交通計画研究室

<https://www.youtube.com/channel/UCKgvRN8g1AhcGB5UCx5h1aQ>

SUPERBELL"Z 堂込聖美です。

現在まで続くコロナ禍の影響を受け、イベント等軒並み見送りや中止が相次いでおりますが、イベントにて皆さまとお会いできる機会が多いベルズももれなく、活動自粛を余儀なくされていません。

昨年7月に対策の下、渋谷にてイベントを開催させていただいた他は、現在も個々の活動が続いております。

毎年の楽しみであったビール電車始め、大胡車庫でのイベントも、次回開催時には必ず皆さまと笑顔でお会いできますよう。それまで皆さまどうでしょうか、ご健康にお過ごしくださいませ。(堂込聖美)



野月貴弘：NHKラジオ第1「てつたび」「らじるラボ」レギュラー出演ほか、鉄道ファン誌ライターなどにて活動中(写真中央)

堂込聖美：「てつたび」トレバラーにて上毛電鉄に乗車ほか、ドラマやアニメの吹き替えなどにて活動中(写真最右)

片貝駅でクリーンボランティア

2020年6月20日、10回目となる上電グリーンボランティアを好天の中での片貝駅にて開催いたしました。これまでは、駅の施設及びその周辺の清掃活動が中心でしたが、今回は前橋市交通政策課とタイアップして片貝駅駐輪場に放置された自転車の「整理」及び「撤去」を春と秋の2回に分けて行う事になりました。

今回の活動は、2月に前橋市より長期間放置状態にされている自転車に整理と撤去を案内する「タグ」を付けていただき、それから約3箇月以上が経過して「タグ」が付けたまま状態である自転車を参加者で「選別」し、駐輪場の端に移動し「整理」するのが目的です。参加者は「上電友の会」と「県立前橋高校鉄道研究会OB」の皆さんをメインに13名の方々に集まいただき、作業は思った以上に順調に進み、駐輪場内の「草むしり」や「ゴミ拾い」まで行う事も出来ました。作業中、柱や柵にチェーンで繋がれて移動困難な自転車に出くわした際、作業光景を終始見ていた近隣住民の方から「電動工具の貸出しを頂く」と言う、大変嬉しいエピソードもあって、作業は約1時間強で終了。「すっきりとした明るい駅の駐輪場」に甦りました。作業終了から帰宅への電車を待つ間は、上電さんからの差し入れで頂いた「麦茶」を片手に参加者同士での「鉄道談義」に花を咲かせるなど大変充実した時間となりました。

今回の活動に参加して、自分なりに「放置自転車」について考える機会が出来ました。自転車は、「健康」「環境」「経済」の3つのメリットがあります。では、何故「放置」されるのかは自動車運転の様な「厳しい規則」が確立されていない事では無いか、それが利用者の「マナー」を曖昧にしていると思います。これは、明らかに解決難易度の高い都市問題です。

さて、最後に今後ともより多くの皆さんと楽しく、少しでも「上電の未来を応援したい」と言う共通の思いからこの活動を継続して行く事が大切と思っております。今回、「参加」並びに「協力」をいただきました皆さんに御礼を申し上げます。

『お疲れ様でした、そして有難う御座います。次回の「撤去」の際も、何卒宜しくお願い致します。』(直井崇博)

撤去については、令和3年2月27日(土)に、地元の参加者を中心に実施しました。(友の会追記)

電車を止めるな！上映会

今年創業98年を迎える銚子電鉄は、ぬれ煎で有名ですが、台風やコロナなどによって経営難に陥っています。

銚子電鉄はクラウドファンディングで製作資金をあつめて作成した映画『電車を止めるな-呪いの6.4km』を2020年8月に公開しました。

この度、シネマハウス前橋のご協力をいただき、上映会を開催することになりました。

コロナ禍で通常のイベントを開催することができないなか、換気扇にて十分に換気を行い、座席は一席ずつ空けてソーシャルディスタンスを保つなどの新型コロナウイルス感染症防止策を施し、上映いたしますので、安心してご来場ください。

なお、政府・自治体等の要請により、会場が使用できない場合は、上映会を中止・延期することがありますことを、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

(塩島翔)

日時：2021年3月14日(日)

①13時30分 ②16時(各回28名・計56名を上限に受付)

会場：シネマハウス前橋

料金(税込)：大人2,000円、中学生1,200円、小学生1,000円

共催：のりのり学会(奈賀由香子代表)

詳細：銚子電鉄『電車を止めるな』HP(<https://www.dentome.net/>)

予約申込先：上毛電鉄友の会 Facebook・上毛電鉄本社に電話

友の会基金を上電に贈呈

上電友の会規約第4条の事業に(3)基金の造成があります。友の会設立以来、皆様のからの会費を原資として、毎年5万円程度造成しております。友の会設立10年を迎えるにあたり、令和2年度通常総会の議題として50万円を予算化しておりましたが、令和3年1月の新春イベントも開催されず贈呈の機会を逸しているところです。

コロナ禍に伴う事業収入の減少など、上電の経営状況を慮るに、基金贈呈は遅滞なく実施されることが望ましいため、イベント時の贈呈式など公表は先送りいたしますが、友の会からの基金贈呈と上電の受け入れの履行についてご報告いたします。(役員一同)

編集後記

結局、丸1年「お出かけ」（県外に）ができませんでした。私は、今も上電（ウイルス対策が施されています。）で仕事に通っているので、私の子供たちは「上電に毎日乗れずらい」と思っているようです。上電はしっかり彼らの心に根を張っています。

どれだけテレワーク、オンライン帰省、リモート観光が日常になっても、会って話したいとか直に見たいという気持ちがなくなるわけではないでしょう。今の子供たちが大人になった時にも、沿線住民と沿線を訪れる人たちの移動を、ノスタルジーだけでなく効率的に支える上電であってほしいものです。その上電がいつまでも走り続けるための手助けを、友の会は続けます。新年度も、会員継続をいただきますようお願いいたします。

■イベント予定 ※コロナ感染症の影響で変更する場合があります

発 刊 上 毛 電 鉄 友 の 会

2021.2

WEB <http://www.jomorailway.com/supporters/>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/jyodontomonokai>